学校番号	３１６

平成 31 年度　芸術科〔美術〕

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	美術２（光村図書出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・美術Ⅰで学習したことや生活の中から感じ取ったことなどを手掛かりに自己の世界を独創的に表現しようと追求する姿勢や、美術文化を大切にする姿勢を持ちましょう。
・「つくる」楽しみや「工夫する」楽しみを共有しながら表現を深め、多用な活動に役立てるよう学習します。
・ファイル、プリント、作品の提出期限、提出場所については必ず守りましょう。

2　学習の到達目標

美術・デザインに関する基本的な能力を一層伸ばすと共に、作品発表を通して自分の考えを伝達・表現する態度を養う。美術Ⅰで学習したことを手掛かりにより一層深く自己を表現できるような教材を選択し、作品を発表することで作品を鑑賞する態度及び高度な表現力・コミュニケーション力を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫している。	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	必要教材の有無 制作の様子 ワークシート 鑑賞活動やグループワークの様子 片付け、清掃の様子	制作途中の作品 ワークシート アイデアスケッチ	制作途中の作品 作品	ワークシート 発言内容
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	工芸・デザイン「切り絵の行灯」	・切り絵には、鉛筆や筆で描く絵画とはまた違った味わいがあることを知る。 ・切り絵の制作方法を理解する。 ・道具の使用上の注意を理解した上で作業する。	○ ○	○ ○ ○	○	○	a: 日本の伝統美に興味をもち，進んで表現しようとする。 b: 表現意図に応じた適切な強調や省略をしながら構想を練ることができる。 c:切り絵ならではの表現と味わいに関心をもち、色彩の効果などを活かして表現が出来ている。自分の表現意図に合う形や白黒のバランスを考えながら、見通しをもち創造的に表現することができる d:他者の思いや多様な表現のよさ、美しさなどを感じとり、味わうことができる。	・必要教材の有無（忘れ物チェック） ・ワークシート ・作品ができるまでの過程、行動 ・作品 ・片付け、清掃の様子
2学期	木彫「木箱」	・浮き彫り(レリーフ)について理解する。 ・最初に明確な仕上がりのイメージが必要になることを理解する。 ・木の質感から想像出来るイメージや色の配色を考える。 ・イメージに合う模様や図案から制作する。	○	○ ○ ○	○	○ ○ ○	a: 題材を自分自身の課題としてとらえ、意欲的に取り組むことができる。 b:様々な模様などを参考にしながら、本制作の図案に取り入れたい基本模様を考える。 c:制作の手順から見通しを持ち、主体的に表現の構想を練っている。 イメージに見合った配色を施し、浮き彫り(レリーフ)調の表現が出来ている。主題から豊にイメージを広げ,集めた資料をもとに表したいイメージを持ちながら表現方法を工夫するなどして，作品の下絵を創造的にスケッチしている。 d: 友人の作品、参考作品の表現の工夫などを感じ取り、理解し見方を深めようとしている。	

2学期	デザイン「図法を使った空間デザイン」	・直線を使っての図法、一点透視図法、二点透視図法を使って立体の作り方を理解する。 ・アイデアスケッチを描き、アイデアスケッチを活用して下描きを完成させる。 ・色や配色の性質を理解し、自分の課題にあった配色計画をする。 ・着色をする。	○ ○ ○	 ○ ○ ○	 ○ ○	 ○ ○	a:興味、関心をもって透視図法やその他の図法を習得し、よりよい空間表現を目指して、自ら進んで制作しようとする。 b:作品の構成や意図を主体的に追求し、自己の作品のイメージに柔軟に取り入れようとする。色の性質を理解し、条件に応じて効果的な配色を考える。 c:イメージした形や配色になるよう、根気強く追求し、制作する。イメージした画面を目指して、より完成度を高めようとする。 d:全員の作品を鑑賞し、自分とは異なる発想の仕方や構成の工夫などの効果的な表現を見つけて味わい、他者及び自己を評価する。	・必要教材の有無（忘れ物チェック） ・ワークシート ・作品ができるまでの過程、行動 ・作品 ・片付け、清掃の様子
3学期	ボックスアート作品制作	・ボックスアート作品について理解する。 ・資料やワークシートを基にしてテーマを決め、素材や技法を検討し構想を練る。 ・構想を基に、アイデアスケッチをする。 ・自分が選択した素材や技法を使って、ボックスアート作品を制作する。	○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○	 ○ ○	○ ○	a:ボックスアートという表現方法に興味、関心をもち、意欲的に制作しようとする。 b:素材や技法を自己の作品のイメージに柔軟に取り入れようとする。条件に応じて効果的な配色を考える。 c: 構想に沿ってイメージした形や配色になるよう、根気強く制作し、表現を追求する。見通しを持ち計画的に制作する。 d:全員の作品を鑑賞し、自分とは異なる発想の仕方や構成の工夫などの効果的な表現を見つけて味わい、他者及び自己を評価する。	・必要教材の有無（忘れ物チェック） ・ワークシート ・作品ができるまでの過程、行動 ・作品 ・片付け、清掃の様子

※　表中の観点について　a: 美術への関心・意欲・態度　　b: 発想や構想の能力

c：創造的な技能　　d：鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。